

第 18 回：目指す人から目指される人へ

教場長 田中仙融

この夏新しく本を書きました。「習う 伝える ころの客ぶり」という客の所作をまとめた一冊です。

コラムで「素敵な茶人を目指しましょう」とみなさんと目標を立ててきました。

ところで、みなさんがある方を「素敵なお茶人」と感じるのはどんな場面、どんな時でしょうか。

茶会で露地や待合での振る舞いや、茶席中での所作ではないでしょうか。亭主との心の通う応答はもちろん、菓子の取り回しや、抹茶の召し上がり方、それに伴うさりげない同席の方々への配慮に心ひかれるのは、私だけではないと思います。

それなのに、実際に茶席に入ると、稽古では時間がなく客の作法を省略したり、人数が少なく連客の所作を十分に理解できなかつたりと、所作を正確にと緊張してしまい、他者への配慮や、自身の姿勢、身のこなしなどは二の次になってしまいます。

客作法のみを一冊にまとめて、手元においていただき、迷ったときには繙いていただけるように、ちょっと小さなサイズにしてあります。

本から学ぶだけではなく「真似て」みてください。ご自身が素敵だと思う方の所作を。そして、伝えてくださいそのころを。きっと茶席が、そして日常が豊かな空間になれるはず。なんといってもころくばりが客ぶりの原点ではないでしょうか。

亭主との会話を楽しみ、それに耳を傾ける方、楽しそうに点前と道具を鑑賞される方、美味しそうに抹茶を召し上がる方、愛おしそうに茶碗をご覧になる方、さりげなくもてなす側の身になって動かれる方、そんな方を拝見すると本当に素敵だと思います。

そのような方を目指し、真似をするばかりではなく、ご自身が真似をされる、目標とされる方になってみませんか。